

第 11 回前橋市産業振興ビジョン協議会 議事録

| | | |
|-------------|---|-------------------|
| 産業振興ビジョン協議会 | 平成 30 年 10 月 3 日 (水) 10:00～11:30 | 前橋市役所 11階 南会議室 |
| 出席者 | <p>委員 阿部委員、岩崎委員、鮎澤委員、加藤委員、狩野委員、鈴木委員、善野委員、中島委員、橋本委員、西巻委員、根岸委員、増田委員、宮崎委員、吉田委員</p> <p>事務局 櫻井産業経済部長、木村産業政策課長、茂木課長補佐、粕川課長補佐、柴崎係長、田中主任 にぎわい商業課 細井補佐</p> | |
| 欠席者 | 五十嵐委員、石川委員、植木委員、沖山委員、唐沢委員、茂木委員 | |
| 議題 | <p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議題 (1) 産業振興ビジョンに基づく各種施策の進捗状況について</p> <p>4 意見交換</p> <p>5 閉会</p> | |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・協議会名簿 ・資料 前橋市産業振興ビジョン各施策の進捗状況 ・参考資料 前橋市産業振興ビジョン個別事業の概要 | |
| 会議内容 | <p>1 開会 (木村課長) それでは、皆様、お揃いになりましたので、ただいまから、11回前橋市産業振興ビジョン協議会を始めさせていただきます。このたび皆様には、ご多忙の中、ご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>2 委員長挨拶 (木村課長) それでは、協議会開会にあたり、吉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>(吉田委員長) おはようございます。半年ぶりの開催でメンバーも少し替わりましたが、後で自己紹介があると思いますがよろしく申し上げます。根岸委員さんから話もありましたが、高崎の音楽センターとかコンベンションセンターとか鉄骨屋さんは忙しいなんて話があるが、実情はそんなことは全然なく、日本中の鉄骨屋が、仕事が間に合わない状態。原因は設計が遅れが出ていて結局4～5件が重なって、一つ断ろうといってもやるところが無い。商社に頼んでやることを探してもらったが、佐賀とか京都とかしかやる事が無く、決して儲かる業種ではない。原因は人手不足。ゼネコンも設計に素人を入れるから余計に設計が遅れていて、この状況はいつ解消できるかもわからない。 それでは、新しい方も含めて活発な意見をよろしくお願いいたします。</p> | |

(木村課長)

ありがとうございました。

新任委員紹介

(木村課長)

続きまして、新たに委員となられた方からの自己紹介をいただきたいと存じます。
はじめに群馬産業技術センター 所長 鈴木 崇 様、お願いいたします。

(鈴木委員：自己紹介)

(木村課長)

続きまして、公立大学法人前橋工科大学 地域連携推進センター センター長善野 修平 様、
お願いいたします。

(善野委員：自己紹介)

(木村課長)

ありがとうございました。新たに委員となられた鈴木様、善野様どうぞよろしく
お願いいたします。続きまして、事務局にも人事異動がございましたので、改めて事務局職員を紹介させていただきます。

(事務局職員：自己紹介)

3 議題

(木村課長)

それでは、ここからは、議事に入りたいと思います。議事につきましては、吉田委員長を議長として進行をお願いします。

(吉田委員長)

それでは、さっそく議題に入りたいと思います。議題の(1)産業振興ビジョン各施策の進捗状況について事務局より説明をお願いします。

(柴崎係長)

(1)産業振興ビジョンに基づく各種施策の進捗状況(資料 事務事業の進捗報告)について説明。
(進捗報告書式を大幅に見直し)

(吉田委員長)

ありがとうございました。それでは、事務局から説明がありましたが、ご質問等ありましたらよろしく
お願いいたします。

(根岸委員)

小規模事業者訪問や御用聞き訪問で市内企業を回っているようですが、感想及び印象はどうですか。
課題が要望としてあがっているのか。市としてどういう対応ができるのか調査していると思いますが、
教えてください。

(柴崎係長)

景況感については、景況調査というものを毎年実施しており、今年もこれから11月に実施するところなので今年度の直近のデータがないので状況は把握できていない。企業訪問で聞くところでは、やはり人材不足が経営課題として挙げられている。また、製品開発系の支援、補助金の内容を教えてほしい相談も多い。業況については、アンケート調査から把握する考えである。

(根岸委員)

新製品に対する補助とか、人手不足への対応とかジョブセンター等を活用しながら、要望にどう応えていくのか。

(柴崎係長)

新製品開発については、平成28年度をもって公募型共同研究補助金が終了したことから、それに代わるものとして、前橋市独自の共同研究補助金を平成29年度より実施している。しかしながら、申請件数、金額ともに減少している状況。

御用聞き型企业訪問については、コーディネーターから市の補助メニューをご案内させていただいている。企業側が開発情報をオープンにすることをためらうケースがある。この理由として、補助額が小さくて見合わない、効果が薄いケースもある。規模によっては効果があるが、ある程度の規模になると薄まると感じている。

(根岸委員)

PRしても申請がないということになると、解決策が見えない。補助金額が小さすぎるという問題については、来年度に向けて厳しい予算状況ではあるが、新製品をやりたいという企業に対しては積極的に支援していく必要があるのでは。人手不足対応については、ジョブセンター等でいろいろな支援策を実施しているが、難しい面があると思われまます。

最後に企業誘致の分野で、五代南部は完売しているが今後どうするのか。売ることがないのに誘致セミナーに出るのか。完売して土地がないという状況は今始まったことではなく、わかっていたこと。常に用意していく必要があるのではないか。いつごろ、どういう調整をして、どのくらいできるかというのはあるか。

(茂木補佐)

面積は広くないが、4～5ヘクタール調整を進めているところである。産業用地の開発を進めたとしても、以前、塩漬け状態になったこともあるので、経済の状況を見極めながら、進めていきたい。再来年5月に市街化編入する方向で進めていければと考えている。

(根岸委員)

再来年、2020年だとオリンピック後で景気が冷え込んで、工業団地を作ったとしても売れないかもしれない。とにかく、在庫がないのは良くないと思われる。

(茂木補佐)

伊勢崎、高崎、太田などは大規模な造成をやっており、焦ってはいる。駒寄ICは保留区域に指定されているので地元と調整できればすぐにやれる状況。

(木村課長)

産業用地のご質問だが、五代南部が平成29年度で売り切れるのはわかっていた。それを踏まえ、

平成27年度から駒寄IC周辺の20ヘクタールの用地を確保するべく準備を始めたが、実現できていない。一部の地権者が賛同できない方がいるのが理由。他にも別の候補地の選定を進めているが、そこは農地であり、産業団地にするには市街化区域に編入する手続きが必要。これを編入する手続きは群馬県が進める形になるが、5年に1度しか定期見直しがないので、開発を進めたい思いはあるものの、最短でも平成32年まで待たないといけない事情がある現状。

(根岸委員)

がんばってもらいたい。5年のルールはよく分からない。前橋出身の国会議員など使って、言っていないと。

(吉田委員長)

誘致の話については、商工会議所を通じて市長に話をしたら、「ファナックとかの規模の企業ですか」と逆質問をされた。そんな大きいものじゃなくて、売上1,000億円くらいの規模がいいんだと話をした。5~10万坪の用地がないと。100人くらいの会社を呼んでもしょうがない。その辺をよく認識していただき、市長がそっちに向かないと産業支援ができないのでは。

(阿部委員)

資料はずいぶん改善され、良くなっている。進捗状況が少し遅れているという項目である「B」が9施策あり、コメント、理由のところを重点的に読んだが、対策が全体的に不十分であると感じる。具体的にいうと、工業団地関係の3-⑤(4)居抜き物件の紹介が2年半全部ゼロというのはおかしい。金融機関とか、我々保証協会とかと情報共有してやっていくべき。新しいところがダメなら既存の物件を発掘していかないとずっとゼロのままと感じている。

小口資金の話になるが、今年度9月までの実績は385件、17億4500万円。保証料全額補助で中小企業、小規模事業者のマインドが向上している。1件あたり500万円くらいの利用状況もあり、まだまだ利用者はいるので、来年度以降についても、継続を強く要望したい。

(中島委員)

1-①小口保証料補助は阿部委員からも意見が出たが、商工会議所としても平成31年度重点要望として要望している。予算査定は頑張してほしい。

1-①(9)よろず相談体制の構築には、各職員のレベルアップとあるが、なかなか3年から5年で人事異動しなければならぬなどで厳しい。商工会議所の経営指導員は15人いて、在任中はこの分野にいる。商工会議所と連携することも検討してほしい。

1-⑤(7)(8)(9)は実施して何人だったとかの結果だが、できれば、やった結果、効果としてみたときはどうだったのか検証したらどうか。

2-①新製品開発から販路開拓まで補助のつながりをもてないか。補助金は単年度会計の中では難しいのはわかるが、例えば、新製品開発補助使った企業を販路開拓補助も優先するとか方法はとれないか。

2-③平成29年度末に作成した企業ガイドブックは非常に良い。効果・成果は確認したか。

2-④ヘルスケアは行政主導困難となっているが、経済産業省も推進しているところなので群馬大学や工科大と連携がないと成り立たないので、産学官の連携を引き続き進めてほしい。

3-①根岸委員からも話が有ったが、産業用地がない状況はわかるが、高崎駅東口から館林にかけて354号線沿線を見ると高崎、宮郷から館林にかけて大規模な工業団地の開発が進んでいる。前橋の企業が流出してしまう懸念がある。一部に第2工場を前橋市外に作りたいというような話もある。旅がらすはドンレミーとの関係もあるのかもしれないが、高崎に出てしまう。産業用地を検

討するなかで、留置施策も必要ではないか。

4-①前橋市創業センターは元気よく始まった割に、実績等が頓挫しているのではないか。活性化に向け、産業政策課も手を入れる時期にきているのでは。

(柴崎係長)

企業ガイドブックについては、掲載企業と直接連絡していいか等の問合せはあったが、商談件数などは聞いていない。今後アンケートなどで追跡調査を行い、報告したい。

(木村課長)

小口保証料補助については、阿部、中島委員からも発言があったが、担当課としてしっかり要求していきたい。市予算全体との調整になる。

また、産業用地はご指摘のとおり在庫も無いが、既存の敷地からのにじみだしで開発という方法、開発審査会で開発が認められる制度を整備をした。すべてにじみだしができる方向では規制行政としてはふさわしくない為、制約がないわけではないが、拡大することはできる。

居抜き調査は平成29年度に実施し、5万9千平米を把握した。すべて企業立地に直結するとは考えていないものの、進出企業に紹介することを目的としている。今後、不動産業界と連携するしくみを作りたい。協定の形になるのかどうか検討していく。

居抜き物件の紹介実績がゼロであることを、阿部委員から指摘があったが、把握した物件を紹介した事例はある。しかし、条件が合わず成約は0件となり、残念な結果となった。

(吉田委員長)

まだ、発言をされていない委員からご意見をいただきたい。

(鈴木委員)

2-③御用聞き型企業訪問について非常に興味があり、産技センターには無い機能。会議所、工科大、市役所が企業へ一緒に行き、ワンストップで経営相談等幅広いものをカバーできるのはいい。産業技術センターにおいても中小企業と共同研究開発をやっているが、なかなかハードルは高い。

1度や2度訪問したところで本当の困りごとは見えてこない。小さなお試し提案をして、お試し試行後にフォローをして、小さな成功体験を重ねる。共同研究での効果、やることでの获得感を見せないとならない。小さな、具体的な提案が大事。そういう点で御用聞きはよい施策。

(増田委員)

一般公募、施策を受ける側の企業の立場で言わせてもらう。私が所属している中小企業家同友会でも経営者同士で話をしているが、一番問題となっているのは採用の問題。人手が足りない。まず採用できない、採用できても基本的な教育ができていない。前橋市の施策としてお願いしたいことは、人財スキル補助金をどんどんやって欲しい。私の会社では2人採用したが、2人ともノイローゼになって辞めた。原因を追求すると、やはり学校教育の場と会社のギャップが乗り越えられない若者が非常に多い。私の会社だけではなく他の企業でもたくさんある。その相談ができる機関が必要であり作ってもらいたい。採用したからにはお金も掛かっていることだし、ちゃんと使いたいが、心理的なものが問題。ちょっとした指導でへこむ、なんでもないような、そこの教育が問題。

高齢者採用も、やはり大企業から小さい会社に来ると、どうしてもそういう意識がある。来てやったんだ、という感じがする人はクビにする。自分の持つ技術を中小企業で役立てたいという人を増やして欲しい。人生100年時代60歳で定年して、60歳から100歳の40年間のうち20年くらい中小企業の力になってほしい。前橋市ではそういった人材を囲い込むような施策を実施し

て、人を活かす予算をつけてほしい。

新製品開発補助金は、私の会社でも長期対応型補助制度を使っている。いい施策であり、3年目になるが、おかげさまで工科大、高専、産総研などうまくやれている。国や県の補助は詳細な説明を求められて面倒だが、前橋市はある程度こんなことやりたい、という概要的なものでも見てくれる。前橋くらいの「ゆるさ」が使いやすい。群馬県のパートナー補助金は補助額80万円に対して資料作成にかかる労力が大きすぎる。以前使ってまた使いたいと思うが、無理。

6次産業化について、観光に目をつけると山本一太議員が言っていた。セミナーの実施に留まっているが、観光の産業は6次産業事業しかない。企業誘致ができないのであれば、あるものを活かす、観光産業。自社ではものづくり技術を活かしてキングオブピッツアをやっている。うちが製造で、あとサービス業と製粉業と連携。きたかんマルシェにも出た。宇都宮の餃子に10票差で負けたが、東京での評価は低くない。

創業補助は、まちなか以外でダメなのはなぜか。起業してから3年5年経ったところにフォローして潰させないようにしたらどうか。起業する方はIT系が多いが、年配のわれわれにはわからないので、そういう分野の若い方とわれわれの企業をうまくマッチングさせることで、今ある企業のためにもなる交流できるような環境をつくってほしい。

(細井補佐)

創業補助はまちなかに限っているという質問をいただいたが、にぎわい商業課は中心市街地の振興を担っているセクションなのでエリア限定で、そこに重点的に施策を打っているところ。前橋市全体のまちづくりを見直すなかで、立地適正化計画を作成し、エリアを限定し、整合性を諮りながら進めているところである。限りある予算の中で施策の集中ということを考えている。にぎわい商業課で展開している補助制度については、新規店ばかりでなく、既存店の支援についてはエリアを外れたところも来年度進めていきたい。にぎわい商業課では中心市街地の補助に限定しているが、産業政策課がエリア関係なく市内全域を創業支援している。施策を活用しながらどんどん出店してほしい。

(橋本委員)

2-③(8) 高度ものづくり技術アドバイザーは、どんなことまでアドバイザーを派遣していただけるのか教えてほしい。

(柴崎係長)

群馬大学工学部退官教員を中心に、11名の方にアドバイザーとして登録をさせていただいている。各アドバイザーにおいて専門分野があり、相談内容に応じて無料で3回まで派遣している。

(橋本委員)

どんな専門知識をもつアドバイザーがいるのかわかりやすく周知してほしい。うちにも相談したいことはたくさんある。

(柴崎係長)

PRが徹底できておらず、申し訳ない。本市のHP等で案内はさせていただいているが、実際今回利用された企業の一件の内容については、御用聞き型企業訪問で専門の機関と相談がしたいというニーズを聞き取り橋渡しができた。今後についても積極的に周知を進めていきたい。

(鮎澤委員)

民間の立場から提言したい。今年は災害が多かったが、全国取引先などからは前橋は災害が少ないと言われ、実感として感じている。前橋市の補助施策は総じて手厚く感謝している。

10月1日に内定式があり、新卒5名を採ることができた。今年は40人面接できたが軒並み内定辞退。5人の内1名が地元の群馬大学で他の4名はUターンであり、近年は地元志向が強い若者が増えている傾向。

昨年、共愛学園の前橋国際大学から採った女性社員は、エンジニアに囲まれている環境の中、文系出身だが頑張っている。共愛の掲げるスローガンはグローバル。地元根付いてグローバルな人材を育てると理解している。広瀬団地出身で本当に地元。海外との橋渡し役となっている。9カ国で行うグローバルミーティングの中心となっている。増田委員からの話で難しいケースもあったが、主体的に目的意識を持って頑張っている方もいる。

本題は、なぜ、内定辞退が多いか。大手より福利厚生面とかが劣っている原因等もあると思うが、平成29年7月の野村総研の成長可能性都市ランキングで、前橋市は子育て環境100都市中第2位だった。これは誇るべきこと。リタイア世代の環境も8位。こういうことを今後活かしていきたい。

野村総研の提言としては、地方に戻る意思のある人の3分の2はUターンの意志がある。私は東京でサラリーマンしていた団塊ジュニアの世代であるが、親である団塊世代の身体の不具合を心配して戻るパターンもある。野村総研の調べでは、現在と同等以上の収入、待遇が求められる。吉田委員長からも話があったが、地方の有力企業として1000億円くらいの規模の企業があれば条件を満たすことができる。前橋市と企業とが互いに選ばれる努力をしなければならない。

ドイツにはモデルとして選ばれている都市の多く、レーゲンスブルクという人口12万人ほど、群馬でいうと桐生市くらいの都市がある。フランクフルトとかの大都市の域内総生産を越えている。理由としてはシーメンスという研究所機関があるのが大きい。工科大学があり、良質な住宅環境、医療環境があり、支援機構が整備されている。

私はこれからも前橋で事業をやっているかと思っている中での提言だが、いろいろなKPIとして事業者数や工業出荷額が使われているが、一人当たり付加価値額やGRP（域内総生産）を指標にすべき。工業団地を増やしてくるだけでは難しい。アメリカのオースティンは前橋と同じく州都だが、IBMの研究所があり、街の中だけですべてが成り立つローカルハブとなっている。いわゆるニッチトップ企業やグローバルに直結した大手企業があると大きい。大学や研究機関が立地することは非常に大きなメリットとなる。

前橋の魅力を高める努力は、市の職員はよくやっている印象。引き続き継続してほしい。前橋も寛容さや多様性が出てきた。ヒジャブ姿の穆斯林系の女性などが、地元の人と話していたり、好ましい雰囲気。日本語学校も増え、ローカルハブとなる条件が揃いつつある。ポテンシャルは高い。前橋工科大や共愛学園があるが、立命館大が大分の別府にあるが、そこも目指せるのでは。

JETROはぜひ使っていきたい。市の職員もグローバルに目を向けるべき。若手職員をレーゲンスブルクに派遣してみるとか。勉強をどンドンして経産省の官僚と喧嘩できるくらいの基礎体力がつけていく必要がある。いずれにしても高崎や大宮を目指すべきではない。いいところは沢山ある。個人的には、前橋駅前芝生の公園でいいのではないかと。海外からのお客様からの反応はいい。また、生糸の街だと話をすると非常に興味を示す。かかあ天下、JETROも含めてPRすべき。

(吉田委員長)

だいぶ時間も経ちましたが、発言をされていない委員からご意見をいただきたい。

(狩野委員)

増田委員も触れていただいたが、2-⑤、当初からずっとじっくり来ないのが産業というくくりの中では、商工会の支援では6次産業として一体的と捉えているが、産業振興と農業振興が別のベクトルで動いていて、大きな隔たりがあること。ある人がカメラマンから就農を希望していたが、地元前橋では農業ができず結局中之条でやった。前橋にもそういった支援があるのかもしれないが、誘導できていない。農業振興は地域資源を活用した産業振興なのだから、農政課と一緒にやってもいいのではないか。外から見れば同じ企業支援なので、この協議会などを活かし、パイプを持って風通しよくすべき。新しい産業が生まれる可能性があるので引き続きお願いしたい。

富士見町はスローシティの構想エリアとなっていて、これからいろいろな事業を始める。市長からは地域資源を活用して、持続可能な地域をつかって欲しいと言われているが、まず浮かんでくるのはやはり農業。農業を中心とした6次産業化。農業と言うファクターも今後、検討してほしい。

(柴崎係長)

農水省と経産省と、国の省庁からして別々で難しさがある。昨年からJA、商工会議所、農政課との共催でセミナーを開催するなど連携の機運は高まっている。私どもとしても、補助メニューをうまく活用できるようにしていきたい。

(加藤委員)

採用・就職支援をしている立場で話をさせていただく。せっかく採用した人材が辞めてしまう。ではどうすればよいか。学校教育と企業が求める人材のギャップが広がっている。教育現場ではアクティブラーニングによる能力開発が進んでいる。しかし、就職先の企業で求められる能力と違う。前橋市が主導するわけではないが、企業側が求める人材を明確にし、どういう人が欲しいのか発信して、教育セクションとやりとりをもっとしていくべき。経済産業省が社会人基礎力を謳っているが、中身を見ると非常に高度な内容が書いてあるが、地元の中小企業にとって本当に欲しい等身大の新人像を明らかにして、企業が欲しい人材をPRしていくべき。

(岩崎委員)

1-⑤ミライバスは地元就職及び将来を見据えたキャリア教育を促進する重要な位置づけであり、非常に興味がある。出店ブースが45ブースとあるが、当日の高校生来場者数と次回への展望をお聞かせいただきたい。

(粕川補佐)

平成30年9月1日に前橋プラザ元気21で、高校生を対象とした企業説明会を実施した。当初は高校生の来場者数を500名と想定しており、各高校の校長先生などをお願いに回り、周知・啓発に努めたが、自由参加という形式だったこともあり、高校生は100人前後でさびしい結果となった。ただ、高校生の人数は少なかったが、小さなお子様とか家族連れの参加者が多く、全体の参加人数は多かった。参加した高校生は楽しんでもらえるなど、それなりの意義はあったと思われる。参加者が少なかった反省点を踏まえ、次年度は開催時期等を見直していきたい。

(岩崎委員)

普通進学高校と実業高校との内訳はわかるか。

(粕川補佐)

普通校と実業校の内訳も、アンケートが集計できれば公表できる。

(善野委員)

2-①公募型共同研究補助金ではたくさんの共同研究をやらせてもらった。おかげさまで本学教官側の意識が変わった。前委員の下田も言っていたが、公募型共同研究補助制度で教官を育てた。全体の6割の教官が共同研究にかかわった実績がある。前橋市の大学として、企業側との共同研究で貢献していくことを問われている。公募型共同研究補助金は既に廃止となったが、その後の開発系事業もやっていただいている。長期対応型補助金、新製品新技術開発補助金、共同研究推進補助金とあるがどれが人気か。

(柴崎係長)

開発フェーズに合わせた対応という支援策であるため、なかなか比較はできないが、長期対応型は3年間で基礎研究から製品化、知的財産までサポートするもの。

(善野委員)

長期対応型以外の補助制度で成果が出るのは難しいのか。そこで住み分けをしているのか。

(柴崎係長)

単年も長期も製品化を目指している。

(善野委員)

前橋工科大学としても、市と連携して取り組んでいきたい。

(吉田委員長)

長時間にわたり、ありがとうございました。委員の方から多くのご意見をいただきました。ちょっと時間が足らなかった印象もありますが、今日は本当にありがとうございました。以上をもちまして議事を終了させていただきます。その他、事務局から何かありますか。

(田中主任)

次回の協議会は3月中旬を予定させていただいております。日程につきましては、後日ご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

(木村課長)

委員の皆様、建設的は発言、熱心なご議論ありがとうございました。

以上をもちまして、第11回産業ビジョン協議会を終了させていただきます。